R5.3.8

令和４年度　第３回
徳島県ＧＩＧＡスクール構想推進本部 会議

徳島県ＧＩＧＡスクール構想推進本部事務局

次　第

日時　令和５年３月８日（水）　午後１時３０分から午後３時まで

１　開　会

２　開会挨拶

３　協　議
（１）ICTスキル取得状況調査について
（２）本年度の成果と課題などについて
（３）令和5年度の目標について
（４）その他

４　閉　会

出席者名簿

所属及び役職	氏名（敬称略）	備 考
徳島県教育委員会　教育長	榊　　浩一	
徳島県市町村教育委員会連合会　会長 徳島県市町村教育委員会連合会　副会長	松本　賢治 河村　誠一	欠席 代理出席
徳島県教育委員会　副教育長	臼杵　一浩	
徳島県小学校長会　会長	三屋田　朗広	
徳島県中学校長会　会長	横畠　道彦	
徳島県高等学校長協会　会長	湊　　雅邦	
徳島県高等学校長協会　特別支援教育部会　部会長	喜馬　久典	
徳島県教育委員会　教育次長（県立学校担当）	中野　敏章	
徳島県教育委員会　教育次長（小中学校担当）	生田　雅和	
徳島県教育委員会　教育政策課　課長	小原　広行	
徳島県教育委員会　教職員課　課長	眞椙　秀也	
徳島県教育委員会　学校教育課　課長	今田　　潤	
徳島県教育委員会　学校教育課　ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ文化創造幹	寺澤　昌子	

出席者名簿

所属及び役職	氏名（敬称略）	備 考
徳島県教育委員会　学校教育課　学力向上推進室　室長	上岡　祐司	
徳島県教育委員会　特別支援教育課　課長	田中　清章	
徳島県教育委員会　人権教育課　課長	久保　義博	
徳島県教育委員会　人権教育課　いじめ問題等対策室　室長	蔭山　善宏	
徳島県教育委員会　体育学校安全課　課長	吉岡　直彦	
徳島県教育委員会　生涯学習課　課長	倉橋　文代	
徳島県立総合教育センター　所長	古味　俊二	
徳島県立総合教育センター　学校経営支援課　課長	大栗　直子	
徳島県立総合教育センター　教職員研修課　課長	米田　直紀	
徳島県立総合教育センター　GIGAｽｸｰﾙ推進課　課長	濵口　和弥	

【事務局】徳島県教育委員会　学校教育課　ＧＩＧＡ・学び創造担当
武田浩明，河野恵子(小)，鈴江優子(中)，山﨑理靖(高)，赤澤昌宏，川井賢一， 片山文男，北田洋介

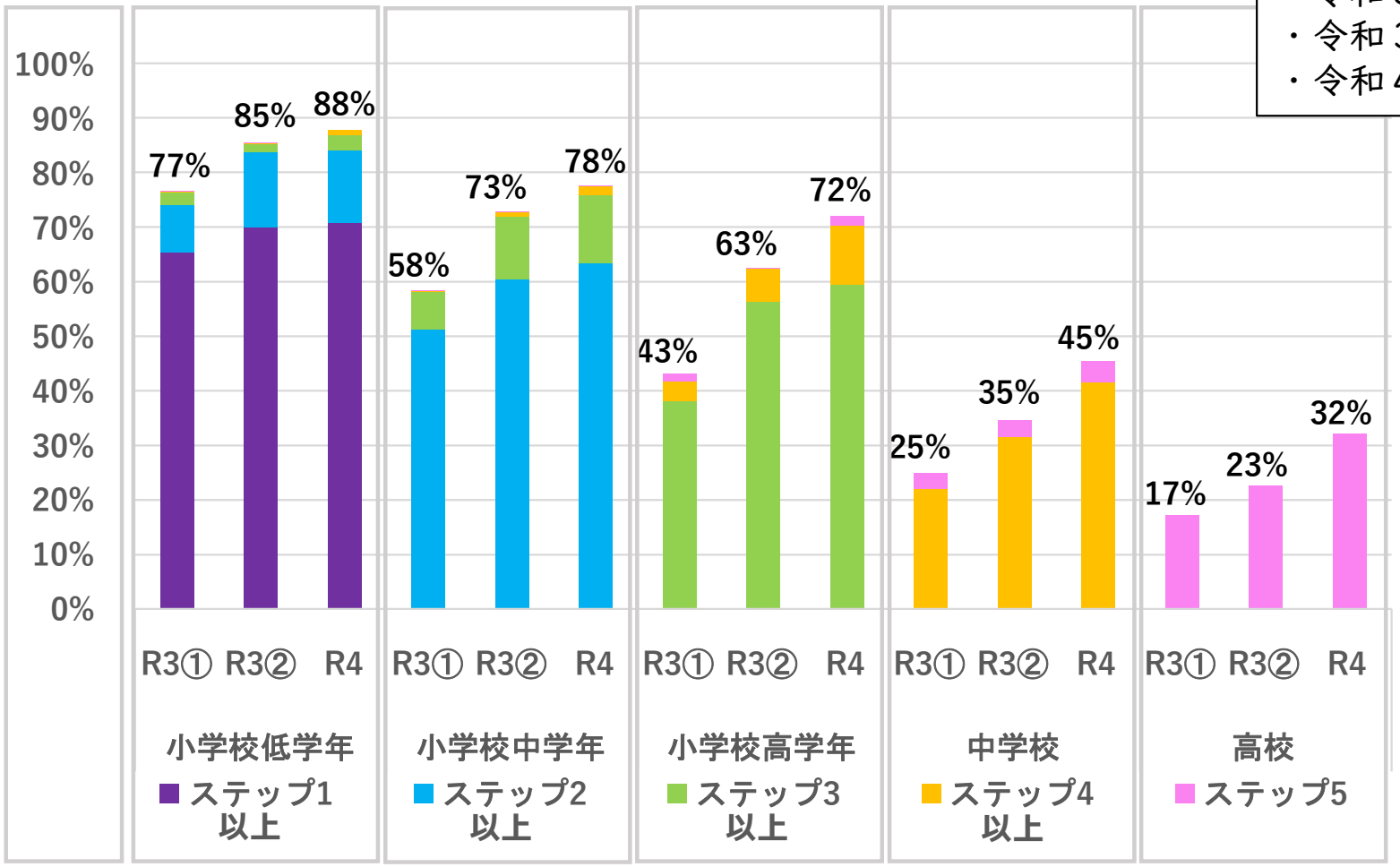
（1）ICTスキル取得状況調査について

ＩＣＴスキル習得体系表

分類		ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4	ステップ5
(1)基本的な操作等	(ア)アプリケーション操作	・教職員の指示やサポートを受ければ，学習用アプリケーションの基本的な操作ができる。	・学習用アプリケーションの基本的な操作ができる。	・学習活動に応じて，アプリケーションの必要な機能を選択して操作することができる。	・アプリケーションの機能と特徴を理解し，場面や目的に応じて，必要な機能を使い分けることにより，効果的に活用することができる。また，様々な操作方法を自分で試行錯誤することにより習得し，作業効率を向上させることができる。	・目的に応じて，必要なアプリケーションを選択したり，複数のアプリケーションをその特質に応じて連携させたりして，効果的に作業を行うことができる。また，その際に授業支援アプリケーションを有効に活用し，他者との共同作業を行うことができる。
	(イ)カメラ機能活用	・カメラ機能を使って静止画や動画を撮影することができる。	・用途にあった撮影を行い，学習に活用することができる。	・静止画のサイズを変更したり，トリミングしたりするなど，必要に応じて加工することができる。	・静止画や動画について，利用する目的に応じて，構図やタイミングなどをあらかじめ構想し，適切なファイル形式，適切なファイルサイズを選択し，記録することができる。	・記録された静止画や動画のデータを，その目的に応じてより効果的に利用できるよう，必要なソフトウェアを用いて加工することができる。
	(ウ)文字入力	・タッチペンや指で，色や太さなどを使い分けて文字を書くことができる。	・キーボードを使って漢字を含む文字を入力することができる。	・指示された時間内に，自分の考えや学習のまとめを正確にタイピング入力することができる。	・様々な学習場面で，必要とされる文字情報を，自ら吟味した言葉により，わかりやすく伝えるための工夫をしながら，必要な情報を正確に入力することができる。	・Webなどから得られる多様な資料をもとに論理的に考え，様々な観点から自分の意見や考えを，相手や目的に応じた方法でまとめ，効率を考えて入力することができる。
(2)問題解決・探究における情報活用	(ア)分類整理・まとめる力	・写真やファイルを保存したり，過去に保存したものを呼び出したりすることができる。	・名前を付けてファイルを保存したりフォルダを項目ごとに分類したりして，データを整理することができる。	・学習のめあてに沿って，収集した資料や情報を取捨選択し，わかりやすくまとめることができる。	・課題解決に向けて構想するために，フローチャート等に表し，最適化を図ることができる。	・階層構造を考えてフォルダを作成し，複数のファイルをわかりやすく整理し，管理することができる。・目的に応じて情報と情報技術を適切に活用し，モデル化やシミュレーションを通して問題に対する多様な解決策を提案できる。
	(イ)プレゼンテーション力	・ペイントアプリ（プログラミングアプリ）で描いた絵や撮影した写真を用いて発表することができる。	・図や写真を貼り付けた簡単なスライドを提示しながら発表することができる。	・自分の考えが相手に伝わるよう工夫しながら，プレゼンテーションをすることができる。	・表，グラフ，アニメーション等を組み合わせたスライドを作成したり，ユニバーサルデザインに配慮したスライドを作成したりするなど聞き手にわかりやすく伝えることができる。	・プレゼンテーションソフトを使い，自らの意見や研究内容を適切にまとめたスライドショーを作成したり，目的や受け手の状況に応じて適切で効果的な組み合わせを選択・統合し，聞き手にわかりやすく伝えることができる。
	(ウ)情報収集力	・教職員の指示やサポートを受けながら，必要な情報を集めたり調べたりすることができる。	・課題解決に必要な情報を集めたり調べたりすることができる。	・課題解決に必要な情報を素早く検索，収集することができる。	・情報通信ネットワークからの効果的な情報の検索と検証の方法を適切に行うことができる。 ・情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し改善する手順を考えることができる。	・インターネットや各種ファイル内から，目的や必要に応じた情報を効果的に検索・収集し，その妥当性や信頼性を吟味できる。
	(エ)コミュニケーション力	・オンラインで，画面上の相手とコミュニケーションすることができる。	・オンラインで話合い活動に参加し，相手の意見を聞いたり，自分の考えを伝えたりすることができる。	・画面共有機能で資料を提示したり，ホワイトボード機能で考えをまとめたりして，相手にわかりやすく伝えることができる。	・授業支援アプリやWeb会議システムの画面共有機能を使い，話合い・発表・作品制作等の協働作業を行うことができる。	・MetaMoJiClassRoom，Classi，Zoomの共有機能を使い，意図する活動を実現するための手順を意識して，話合い・発表・課題研究等の協働作業を行うことができる。
3)情報モラル・情報セキュリティ	(ア)情報社会の倫理	・約束やきまりを守ってコンピュータを使うことができる。	・相手への影響を考えてコンピュータを使うことができる。	・個人や社会への影響を考えてコンピュータを使うことができる。	・ネットワークを利用する上での責任について考え，ルールや法律，違法な行為のもたらす問題の重要性を理解し，対面での関係と同様に，他者を尊重し，適切に行動することができる。	・公共的な空間における基本的原理を活用して，事実を基に多面的・多角的に考察し，情報モラルを含む情報の妥当性や信頼性を踏まえた上で公正な判断を行い，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる。
	(イ)情報に関する権利	・人の考えや作品を大切にすることができる。	・自他の情報を大切にすることができる。	・情報にも権利があることを知り，尊重することができる。	・情報に関する自分や他人の権利があることを踏まえ，データの処理ができる。 ・著作権や知的財産権などの尊重が重要であることを理解し，適切に行動することができる。	・情報に関する法規や制度及びマナーの意義，情報社会において個人の果たす役割や責任，情報モラルなどについて理解し，考察することができる。
	(ウ)危険回避	・コンピュータは，大人と一緒に使い，危険を避けることができる。	・危険な目に遭ったときは，大人に知らせて適切に対応することができる。	・危険を予測し，避けるように心がけることができる。	・ウイルス，不正アクセス，詐欺等の犯罪など，インターネットの危険性を理解した上で，安全に行動することができる。	・ウイルス，不正アクセス，詐欺等の犯罪など，インターネットの危険性を科学的に理解した上で，それらについて適切に行動できるとともに，自ら情報発信し，他者への啓発を行うことができる。
	(エ)情報の取り扱い	・知らない人に個人情報を話すことが危険なことだと理解して行動できる。	・情報には誤ったものがあることを理解することができる。	・情報の正確さを判断する方法を知り，確認できる。	・情報が社会に果たしている役割や及ぼしている影響について理解し，適切に利用することができる。	・メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について科学的に理解し，効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現された情報を評価・改善することができる。
	(オ)健康面への配慮	・決められた利用時間を守ることができる。	・利用時間を決め，守ることができる。	・健康を害する行動を自制することができる。	・自分の健康面に留意して，情報メディアの利用による健康を害する行動を自制することができる。	・情報機器の活用について，自らが健康に配慮した学習環境や望ましい習慣についてその意義を理解し，自他の課題を発見し，よりよい解決に向けて思考し判断するとともに，他者に伝えることができる。
	(カ)情報セキュリティ	・パスワードの大切さを理解し，扱うことができる。	・ダウンロードは危険を伴うことがあることを理解し，コンピュータを使うことができる。	・個人情報が流出する原因やウイルスの簡単な知識を知り，注意しながらコンピュータを使うことができる。	・パスワードによる暗号化やバックアップ等，生活の中で必要となる情報セキュリティの重要性を理解して，行動することができる。	・情報通信ネットワークの仕組みや構成要素，プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解した上で，情報セキュリティを確保する方法について考えることができる。

ＩＣＴスキル習得状況調査について

校種（段階）別の達成率



各調査期間
- 令和３年度①（9月～11月）
- 令和３年度②（11月～12月）
- 令和４年度　（4月～R5.1月）

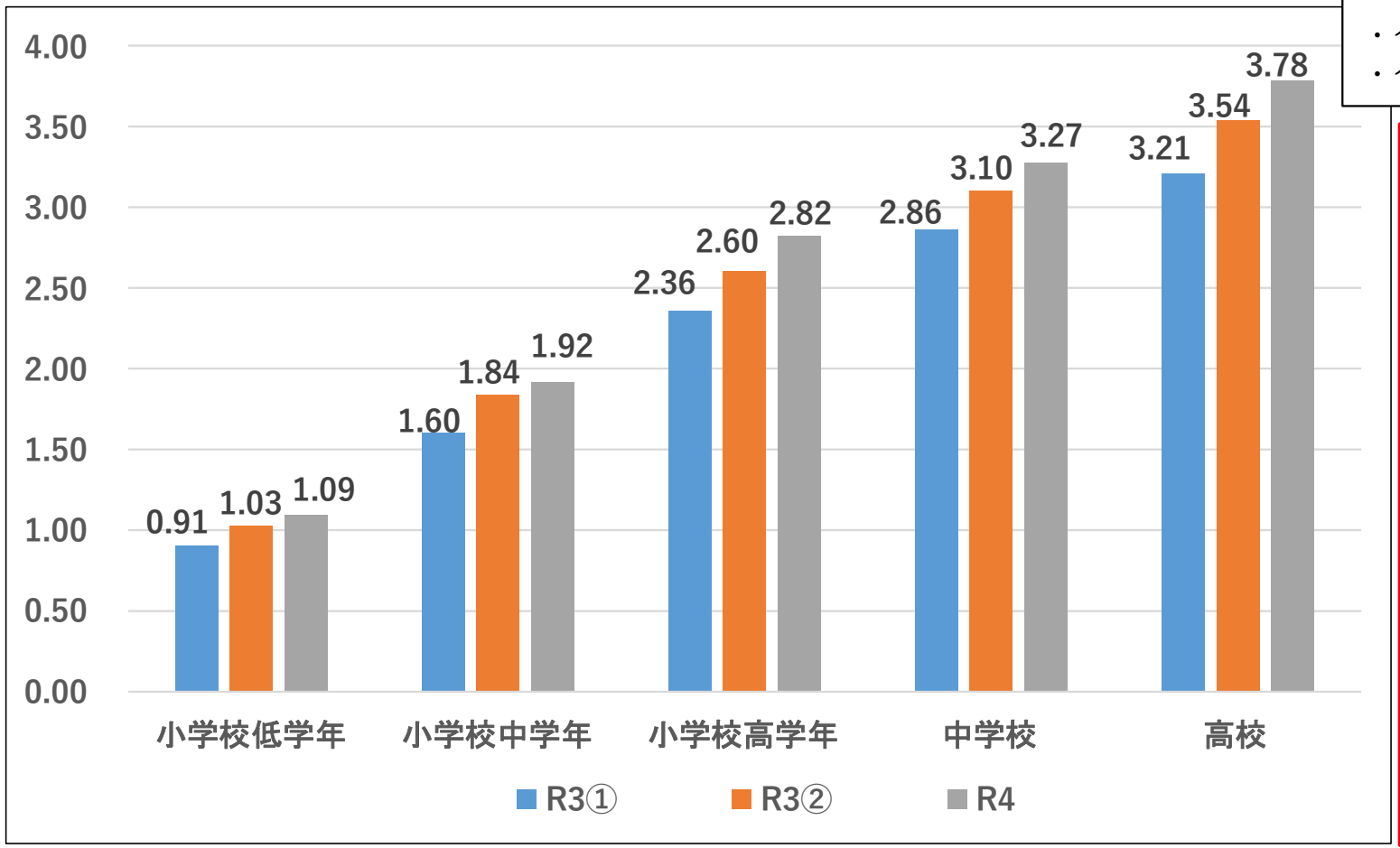
各校種で習得が想定されるステップ

高等学校	ステップ５
中学校	ステップ４
小学校高学年	ステップ３
小学校中学年	ステップ２
小学校低学年	ステップ１

■すべての校種で、調査ごとに達成率が向上している。
■校種が上がるとともに達成率が低くなっているが、Ｒ３②からＲ４にかけて、小学校高学年・中学校・高等学校は小学校低・中学年と比較すると達成率の伸びが大きい。

ＩＣＴスキル習得状況調査について

校種（段階）別の平均ステップ値



各調査期間
- 令和３年度①（9月～11月）
- 令和３年度②（11月～12月）
- 令和４年度　（4月～R5.1月）

平均ステップ値について

各校種毎に、ステップの点を合計し、その合計点を各校種の全回答数で割って算出

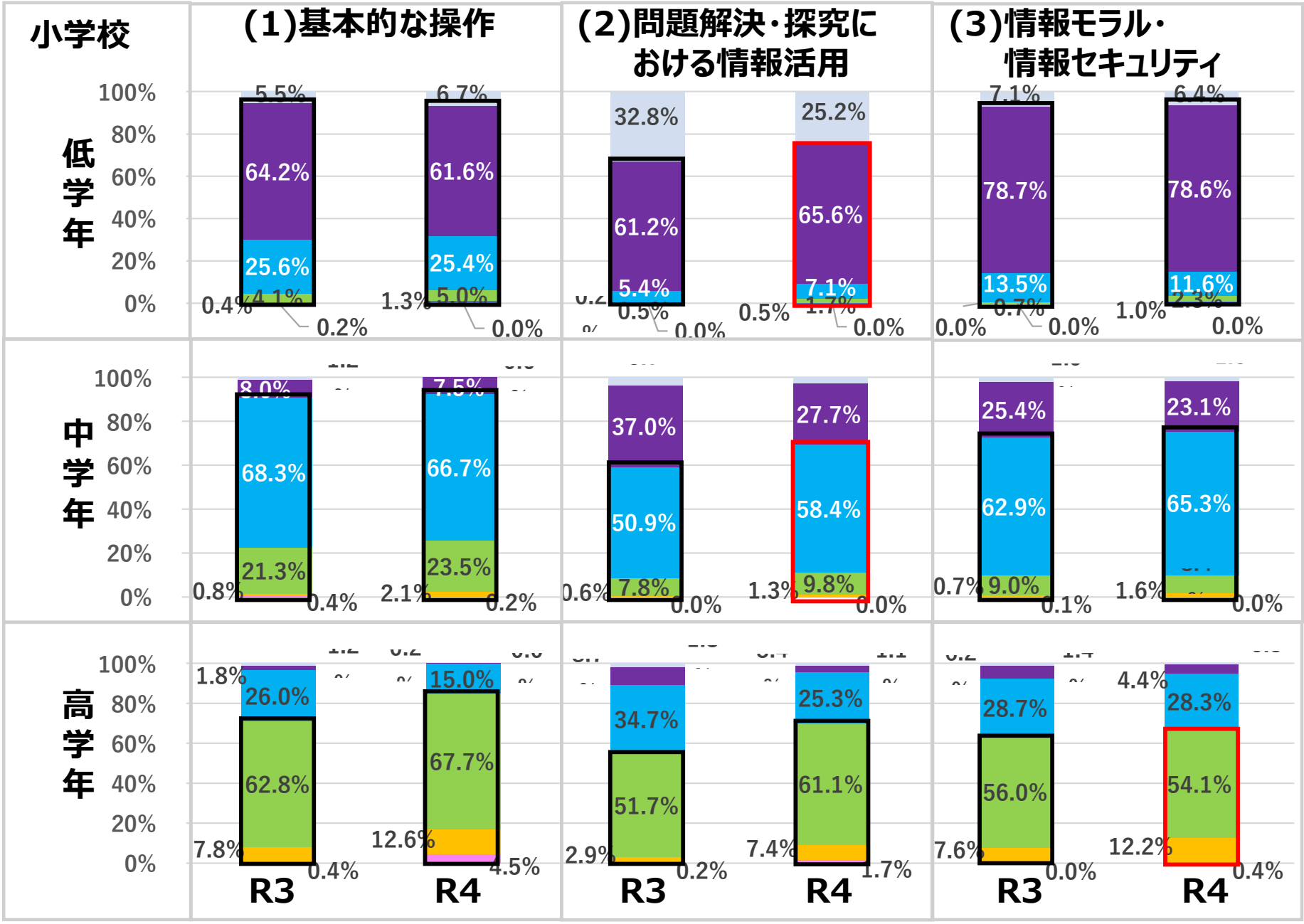
各ステップの点数	
ステップ５	５点
ステップ４	４点
ステップ３	３点
ステップ２	２点
ステップ１	１点
ステップ０	０点

■すべての校種で、各調査期間ごとに平均ステップ値上昇上している。
■校種が上がるにつれて、より高度なスキルを習得できている。

ＩＣＴスキル習得状況調査について

大項目のスキル習得状況

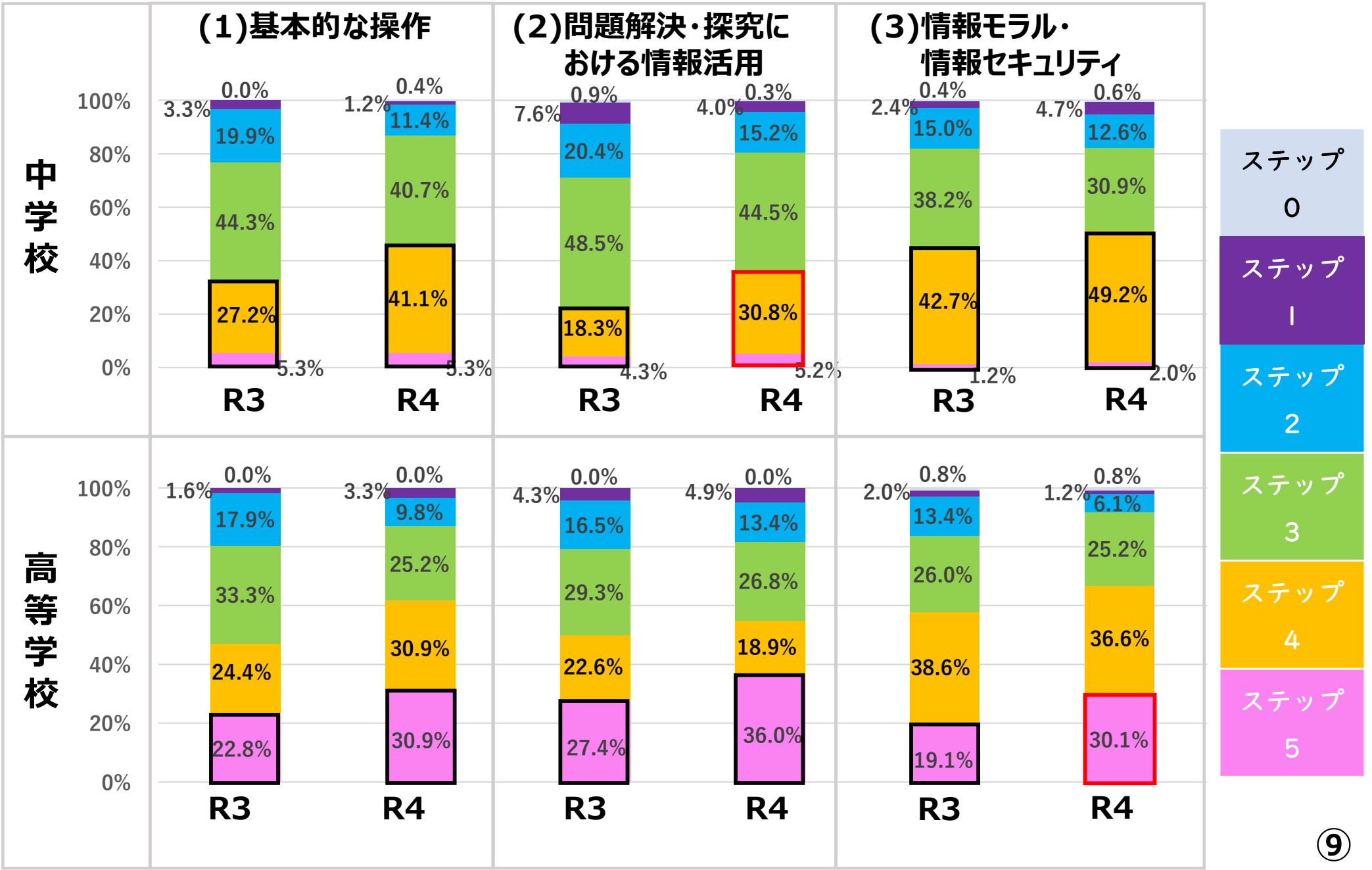
各調査期間
・令和３年度（11月～12月）・令和４年度（4月～R5.1月）



ＩＣＴスキル習得状況調査について

大項目のスキル習得状況

各調査期間
・令和３年度（11月～12月）・令和４年度（4月～R5.1月）



令和４年度ＧＩＧＡスクール構想推進本部　　【　小学校　】部会

令和４年度重点目標

学びを豊かにするＩＣＴ活用と情報モラル・セキュリティ教育の充実



課題

・効果的な活用への深化

・苦手意識をもつ教員へのサポート

方策

・ICTを活用した研究授業，参観授業の実施

・学校全体で組織的に推進

第２回推進本部会議以降の対応状況

・授業の参考例、資料等の紹介、活用促進、公開授業の参加推奨や取組の意味づけなどを、部会通信やGIGAスクール推進チームにより進めていく。

・他校種の実践の活用や、授業参観への参加などを推奨していく。

・GIGAスクール推進チームによる各学校への助言など

・部会通信による紹介
（今後の目指す方向性、情報モラル・情報セキュリティについてなど）

ICTスキル習得状況調査結果の概要

・小学校全体の達成率は、７９％であり、約８割が目標を達成している。
・基本的な操作技術の習得が進んでいる。
・情報活用力については、すべての項目で達成率が向上しているが、６割に満たない項目もある。
・情報モラル・情報セキュリティについては、全体的に上昇傾向にあるが、中には、昨年度と同等、もしくは低下している項目も見られる。

令和４年度ＧＩＧＡスクール構想推進本部　【　小学校　】部会

令和４年度の成果と課題

＜成果＞
・ICTスキルの習得状況から、多くの学校で、日常的にICTが活用されていると考えられる。
・情報活用力においても、身についてきている。
・情報をまとめる、考えや意見を整理・共有する、話し合い活動をするなど、協働的な学びは充実しつつある。
・家庭への持ち帰りが日常化してきている。
＜課題＞
・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に推進していくこと。
・AIドリルなど、個に応じたICTならではの学び方を拡充をしていくこと。
・ICTスキルを活用し、児童が自ら課題を解決する主体的な学びを充実すること。
・各教科等における、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度の育成などにつながるICTを活用した授業改善を進めていくこと。
・予習、復習など家庭での学習と、学校での学びの連続性を意識した授業など、ICTの特質を生かした学びを拡充していくこと。

令和５年度重点目標

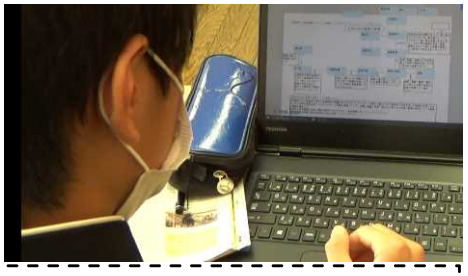
＜重点目標＞
「ICTの特性を生かした新たな学びの拡充」
～児童が自立的に学びを進める学習をめざして～
・教員の意識改革のための研修の実施
・「個別最適な学び」を充実するための教員研修や事例の共有
・学びを豊かにする授業改善
・学校全体で組織的に推進、小・中の連携を意識した情報共有



令和４年度ＧＩＧＡスクール構想推進本部　　【　中学校　】部会

令和４年度重点目標

１人１台タブレットの効果を生み出す授業改善



課題

・１人１台タブレットの有効性や便利さの実感

・１人１台タブレットの活用による学校と家庭の学びの連続性

方策

・教科，校種を超えた１人１台タブレットを活用した授業の共有

・「持ち帰り」も含めた１人１台タブレットを活用した家庭学習の充実

第２回推進本部会議以降の対応状況

・GIGAスクール推進チーム（学校訪問，要請訪問等）による指導の実施
→調査結果を踏まえた具体的な指導

・部会通信の発行
→活用事例の紹介，活用頻度の段階に応じたヒントとなる先進事例等の紹介

・GIGAスクール推進チーム（学校訪問，要請訪問等）では，各教科の本質を捉えた授業を展開するための１人１台端末の活用を意識した指導・助言をした。

・「部会通信vol.２」では，各校が参考にして取組を進めることにつながる「今後のめざす方向性」や，「先進的に活用を進めてきた学校が乗り越えてきた道のり」等を紹介した。

ICTスキル習得状況調査結果の概要

・「ICTスキル習得体系表」のステップ４（中学校程度の習得を想定したもの）に対する中学校全体の達成率は４５％であり、昨年度より１０ポイント向上している。
・すべての項目で、昨年度より達成率が向上しており、特に、基本的な操作等の「アプリケーション操作」や「文字入力」、問題解決・探究における情報活用の「プレゼンテーション力」や「コミュニケーション力」、情報モラル・情報セキュリティの「情報セキュリティ」について向上しており、各校で１人１台端末の活用が進められていることがうかがえる。
・問題解決・探究における情報活用の「分類整理・まとめる力」については、１７％の達成率であり、今後の取組の課題である。

令和４年度ＧＩＧＡスクール構想推進本部　　【　中学校　】部会

令和４年度の成果と課題

＜成果＞
・授業において、１人１台端末を活用する機会が増えている。
・学校生活の日常場面で活用する機会が増えている。
・各市町村･学校単位での研究･取組が盛んになり、活用方法･活用場面も増えている。
・生徒・教師の情報活用スキルが向上している。



＜課題＞
・各教科等の目標達成につなげる活用の促進。
・習得したスキルを生かした授業や持ち帰りの日常化と家庭学習での活用の工夫。
・各校の活用頻度や活用場面の状況に応じた研修や教科部会の充実とサポート。
・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた効果的な活用方法の工夫。

令和５年度重点目標



＜重点目標＞
「全教職員で取り組む１人１台端末の活用」
～「日常づかい」から「個別最適な学び・協働的な学び」をめざして～

・教職員が互いに高め合い・学び合う研修の充実
・小・中・高の連携・接続を踏まえた１人１台端末の活用状況と発達段階に応じた活用についての共有促進
・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現させるための事例やヒントの紹介（部会通信、学校訪問、要請訪問等）

令和４年度ＧＩＧＡスクール構想推進本部　【　高等学校　】部会

令和４年度重点目標

タブレットの日常的な活用による「効果的な学び」を目指した、学校全体での組織的推進



課題

・「深い学び」につながる効果的活用

・学校と家庭の学びの連続性の確保

方策

・ミニ研究授業、教科会の実施、校内の好事例を共有

・「持ち帰り」や個人アカウントを活用した、家庭における学びの充実

第２回推進本部会議以降の対応状況

【学校】
・ミニ研究授業等により効率的、効果的な活用を知り、“ねらい”をもった活用を含む授業をデザイン。
【部会】
・学習効果を高める活用事例を収集、発信（部会通信）。

ICTスキル習得状況調査結果の概要

【昨年度との比較】全ての調査項目においてステップ５の数値が高くなっている。

⇒学校における活用頻度の向上。効率的、効果的な活用の浸透。

（基本的な操作）（イ）“カメラ機能の活用”のステップ５がＩ７％から３２％に上昇。

⇒レポート等での活用（写真や動画の添付）。ＩＣＴ活用を軸とした授業デザインの増加。

（問題解決・探究における情報活用）（エ）“コミュニケーション力”のステップ５が３９％に上昇。

⇒「協働的な学び」を意識した活用の浸透。

（情報モラル・情報セキュリティ）（カ）“情報セキュリティ”のステップ５が上昇したが、２２％に留まる。

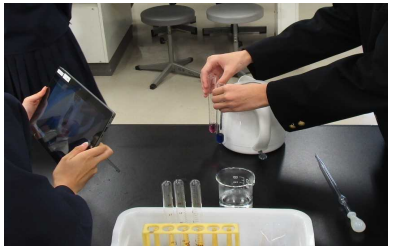
⇒ステップ５の難易度が高い。実態に応じた体系表の内容について検討が必要。

令和４年度ＧＩＧＡスクール構想推進本部　【　高等学校　】部会

令和４年度の成果と課題

【成果】

・活用が促進したことにより、レポートの回収や協働学習におけるメリットを発見。
・家庭で作成した動画を活用する等、授業デザインの変化。
・求人票の電子データを家庭でも閲覧可能に。
・特別教室や実習場等でも積極的に活用。



【課題】

・多様な場面における、学習支援ソフトの機能等の活用事例を共有・発信。
・「一斉授業」に留まることなく、学習者がそれぞれのペースで学ぶ機会の創出。
・個人アカウントを使用した、学校と家庭の学びのシームレス化。



令和５年度重点目標

ICTを活用した双方向型学習活動の実施による、
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を推進。

・学習支援ソフトの活用で、双方向のやり取りをリアルタイムにし、**「個別最適な学び」**へ。

・多様な「学びの手段」を適切に組み合わせた**「協働的な学び」**を実施。（拡大提示装置×学習支援ソフト等）

・活用事例の発信・共有。（校内）ミニ研究授業等、（部会）県内外の事例を収集、部会通信等で発信。

令和４年度ＧＩＧＡスクール構想推進本部　　【特別支援学校】部会

令和４年度重点目標

発達段階や障がい種別に応じたタブレットの利活用の充実
～みんなで「I(いつも)C(ちょっと)T(たのしい)」活用を～



課題

・情報モラル教育の充実

・個々の学びを支えるオンライン学習等の工夫

方策

・「情報モラル研究会」を設置し、協働学習を推進

・ICT活用による新たな学び・体験の創出

第２回推進本部会議以降の対応状況

①情報モラル研究会における児童生徒を主体としたオンラインによる会議を延べ２回実施

②オンラインによる学校間交流の促進
・教育版マインクラフトを活用した取組み
・各校の特色ある取組みを紹介

③部会通信による好事例の発信

①各校の児童生徒がオンラインでつながり、「安心安全にオンラインゲームを楽しむためのルール」をテーマに協議し、「情報モラル・ターゲット表」(案)を作成

②教育版マインクラフトを活用した学校間交流や「竹紙の作業」や「みまカフェ」について紹介するなど、オンラインを活用した新たな交流を実施

③タブレットを連絡帳として活用した好事例を共有

ICTスキル習得状況調査結果の概要

①各スキルともに、小学部・中学部・高等部と段階的にステップアップしており、個々の実態に合わせたICTスキル習得への支援が定着しつつある。
②情報モラル・情報セキュリティに係るスキル習得の一部に課題があるため、次年度は情報モラル研究会の取組みを強化する。

令和４年度ＧＩＧＡスクール構想推進本部　【特別支援学校】部会

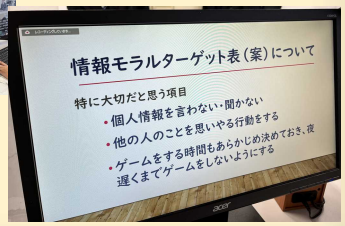
令和４年度の成果と課題

①情報モラル研究会

情報モラル・ターゲット表の作成



各校でまとめた意見をオンラインで共有



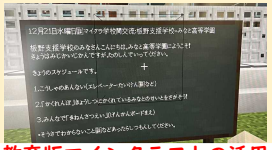
情報モラルに係るルールづくりの取組

【成果】
・県内の12校がオンラインでつながり、協働的な学びを創出

【課題】
・各校の実態に合わせたテーマの設定及び多様な参加方法の工夫

②オンラインによる交流

新しい形態の学校間交流


教育版マインクラフトの活用



みまカフェの紹介


全員で記念撮影


１人１台端末を活用！！

【成果】
・オンラインをフル活用した新しい交流の場を実現

【課題】
・オンライン交流に必要なICTスキルを教員間で情報共有

③タブレットを連絡帳として活用

部会通信による好事例の共有

【事例①】小学部１年生
給食の食形態・食事の様子を共有，専門家（言語聴覚士）のアドバイスにつなげた事例

【事例②】小学部2年生
学校のトイレで排尿できるようになったことを共有し，家庭やデイサービスでも般化できた事例

【事例③】小学部2年生
個別の指導計画の目標であるちょう結びの成果を家庭と共有できた事例

【事例④】小学部2年生
学校での支援や教材を共有することで家庭でも歯磨きができるようになった事例

国府支援学校小学部における事例の紹介

【成果】
・好事例の共有により、他校における活用が促進

【課題】
・活用方法や持ち帰りルールについての整理と教員間での共通理解

令和５年度重点目標

■重点目標　発達段階や障がい種別に応じたタブレットの利活用の拡充
～みんなで「I(いつも)C(ちょっと)T(たのしい)」活用を～

＜方策案＞
・「情報モラル・ターゲット表」の共有と活用によるICTスキルの習得の促進
・オンラインの活用による新たな学びや体験の拡充

令和４年度ＧＩＧＡスクール構想推進本部　【不登校児童生徒の学びの支援検討】部会

令和４年度重点目標

タブレットの活用による「つながり」の強化
～「心のサポート」と「学びのサポート」の充実～



課題

・令和３年度「活用事例集」の活用推進
・「適応指導教室」との連携

方策

・アンケート調査等による情報収集と内容のブラッシュアップ
・「適応指導教室」の実態把握と連携強化

令和４年度の成果と課題

＜成果＞
・不登校児童生徒等への支援のための『活用事例集（改訂版）』の作成
・ＩＣＴの活用による『教育支援センター』との連携構築
＜課題＞
・「未然予防」「初期対応」におけるＩＣＴの活用が不十分である。
・教育支援センターの活動に対する認知を高める必要がある。また、センターでのＩＣＴの活用を充実させる必要がある。



令和５年度重点目標

■重点目標
・不登校の「未然予防」及び「初期対応」のための効果的なＩＣＴの活用
・「中くらいの器」（『教育支援センター』及び『保健室等』）と学級・担任等との連携強化

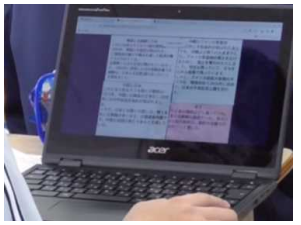
＜方策案＞
・協力学校での年間を通した実践研究
①「未然予防」、「初期対応」のための活用法について
②児童生徒の「主体的な活用」につなげられる工夫や手立てについて
・『教育支援センターに通う児童生徒』や『保健室・別室登校の児童生徒』と学級・担任等とのＩＣＴを活用したつながりの好事例を収集



令和４年度ＧＩＧＡスクール構想推進本部　　【　総務　】部会

令和４年度重点目標

持続可能なＧＩＧＡスクール構想推進に向けた制度設計の提案



課題

・持続可能なＧＩＧＡスクール構想推進に向けた次年度以降の具体的な調達方針の検討

方策

・高校段階の１人１台端末や関連備品等の調達・整備状況、将来の機器更新の際の調達方針の検討状況について、他都道府県あてに、独自調査を実施

都道府県調査結果の概要

・１人１台端末の整備手法について	①公費整備：52%　②保護者負担：41%　③公費整備と保護者負担の混合：7%
・公費整備の財源	○「地方創生臨時交付金」を活用、もしくは併用：96%
・公費整備端末の使用予定期間	①５年間：70%　②６年間：22%　③未定：8%
・公費整備端末の更新時の手法	①公費負担：13%　②保護者負担：35%　③混合：9%　④未定：43%
・端末更新時の課題等	①端末及びそのＯＳ等の仕様選定 ②生徒所有端末の学校へのネットワーク接続手法 ③公費負担の範囲や在り方 ④公費整備を行う場合の「財源」 など

今後の対応

本調査結果や今後の国の動向などを踏まえ、具体的な制度設計を行う。

令和４年度ＧＩＧＡスクール構想推進本部　　【 データ活用研究 】部会

令和４年度重点目標

CBTの効果的なデータ活用の研究



第２回推進本部会議以降の対応状況

・実証校（小2校，中2校）において，試行テストを実施･･･１月中・下旬
・第3回部会において，実証結果を分析，検証･･･････････２月２８日

令和４年度の成果と課題

＜成果＞・CBTシステムを構築するとともに，対応する問題を作成し，全ての実証校において，
円滑に実施することができた。

＜課題＞・大規模校での実施を含め，実証規模を拡大しての検証が必要
・画面上での問題提示，解答の制約　→　学力向上に資する問題としての質の担保
・効果的なデータ活用に対する継続的な研究

令和５年度重点目標

■重点目標
CBTの効果的なデータ活用の研究

＜方策案＞
・実証の効率化を図り，実証規模を拡大する。
・正答や誤答に対応した個別問題や記述式など，学力向上に資する問題となるよう，検討する。

令和４年度ＧＩＧＡスクール構想推進本部 【徳島県学校教育情報化推進計画作業】部会

徳島県学校教育情報化推進計画について

趣旨

「学校教育の情報化の推進に関する法律」に基づき，本県の「学校情報化推進計画」を策定し，教育の情報化に関する施策を総合的かつ計画的に推進する。

推進期間

令和５年度から令和７年度までの３年間

基本方針と具体的取組

（１）ＩＣＴを活用した**児童生徒の資質・能力の育成**
　　情報活用能力の育成，情報モラル，情報セキュリティ
（２）**教職員のＩＣＴの活用指導力**の向上と**人材の確保**
　　研修の充実，教科情報対応，支援人材の活用
（３）ＩＣＴを活用するための**環境の整備**
　　通信環境確保，教育データ活用，個人情報保護
（４）ＩＣＴ**推進体制の整備**と**校務の改善**
　　学校を支援する体制整備，校務のデジタル化

計画の具現化

成果指標設定

スケジュール

令和５年　３月８日　徳島県ＧＩＧＡスクール構想推進本部
　　３月末　　公表

令和４年度ＧＩＧＡスクール構想推進本部　【GIGAスクール推進チーム】

ICT環境を活かし「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、教科指導等に関して指導助言

➢ １人１台端末を活用した効果的な授業実践の推進



□ GIGAスクール教科等研究集会（７月・８月実施）

✓ 小中高の教科における端末を活用した効果的な授業づくりについて研修を実施

□ 学校訪問を通じた指導助言

✓ 各学校の研究授業・公開授業を訪問、教科指導主事による指導助言

校種	小学校	中学校	高等学校等	特別支援学校
学校訪問校数	５２	２７	３４	１０
研究授業数	１２４	５０	６４	１４

□ 「推進月間」による取組の促進（６月・１１月実施）

✓ 端末を活用した公開授業・授業の相互参観などを依頼

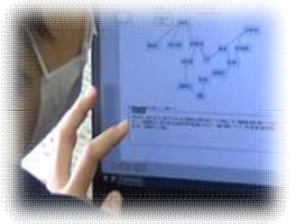
✓ 各校の取組を各校HPに掲載を依頼、好事例のＨＰを紹介

➢ 好事例の収集・発信

□ 小・中・高・特別支援学校等から部会通信を配信

✓ 学校訪問等通じて収集した「授業や持ち帰りなどの事例」を学期に１回程度発信

□ EdTechモデル校・推進校の公開授業



✓ 小学校 ７校、 中学校 ３校において、計２５回の実施

□ GIGAスクール実践動画コンテストの実施

✓ 応募作品数計 ２７２点、小学校 １３７点、中学校 ７９点、高等学校等 ４５点、特別支援学校 １１点

➢ 研修等の実施

□ 徳島県GIGAスクール構想推進者研修講座

✓ 管理職と、担当者を別にして研修を実施（悉皆）

□ 各学校等における研修のサポート

✓ 小学校 ２７校、中学校 １１校、高等学校 １９校、特別支援学校 ４校、市町村教育委員会 １件

➢ 活用状況の把握

✓ 「端末利活用状況調査」や「ICTスキル取得状況調査」の実施、及び、学校訪問による聞き取り

【学校からの意見等】

・新たな学びへの転換するための授業モデルが必要
・羅針盤となるＩＣＴ活用の指標が必要
・現在の状況に応じた新たなＩＣＴスキル体系表に改定

【今後の取組】

・これまでの実践事例を校種別・教科別に整理・分類し，「活用モデル」を作成し，県内への普及展開を図ることを検討。

令和５年度　推進目標と全体重点目標（案）

■将来を見据えた推進目標

「ＤＸによる学び・指導の変革と効果的活用の推進」

■全体重点目標

①１人１台端末の日常的・効果的活用の推進

・「文房具」として、日常的な活用を図る。

・学校のホームページ等で、好事例を発信する。

②ＩＣＴ活用による「子ども主体の学び」の充実

・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」について研究する。

・「教師主体の『教える』から子ども主体の『学ぶ』教育活動」へ転換を図る。